

令和4年12月2日



光が丘第二中学校 学校だより

TEL 3976-9202 FAX 5383-3608

<https://www.hikarigaoka2-j.nerima-ky.ed.jp>



「キャリア教育」について考える

校長 山田 美鈴

中学校でのキャリア教育は、義務教育9年間を終え、進学指導のみならず社会に出て自立するための指導助言を、主に総合的な学習の時間などを使って行っています。（「キャリア教育」とは、そもそも社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育てることを意味します。）

かつて日本では大量生産・大量消費によって高度経済成長期を支えていた時代がありました。土日返上して働くことをイメージした「日月火水木金金」という歌があったように、働く時間が長いほど利益が上がるという状況は、今や遠い昔のこととなりました。

産業構造が大きく変化した今日の日本では、成熟期を過ぎ、働く時間の長さが利益に結び付くとは限らない現状があります。平均寿命が延びたことで雇用形態や労働者の意識も変化しており、生涯を通じた働き方が多種多様化していると言えます。そして若い世代を中心に、転職を前提に就職先を選ぶ人も多くなってきたようです。本年は男性の育児休業取得を促す改正育児法・介護休業法が施行されたことも、働き方改革としての大きな変化といえます。

またコロナウイルス感染拡大も相まって、リモートワークや時差出勤が仕事と生活のバランスを考え直す契機ともなり、定年後の仕事に対する関心も高くなっています。（私も人ごとではありません・・・。）

今の中学生が社会人となった時には、さらに加速度的に変化を遂げていることでしょう。

そこで大切なことは「働くことの意義」です。働くことによって誰かの役に立っているという喜びを感じられるかどうか？がポイントであると思うのです。自分を必要としている場がある、自分を必要としている人がいるという実感こそ、本当の幸せであり働くことの意義であると思います。中学校までの義務教育9年間の学びを通して、どう生きていくべきなのか？それぞれが真剣に考えてほしいと願っています。中学校卒業後の進路は一つの通過点に過ぎません。社会に出



る際に高収入の仕事を選んだところで体を壊してしまったり、自分の存在感や、やりがいを感じられなかったりしたのでは、本当の幸せとは言えません。3年生は卒業後の進路を決定するための大切な時期を迎えています。どうかこれからの生き方そのものについて、ご家族でじっくり意見を交わし合える時間も取っていただきたいと願っています。

